

## 通信技術の更なる発展に向けた若手論文特集の発行にあたって

通信技術の更なる発展に向けた若手論文特集編集委員会

委員長 塩川 茂樹



通信技術は日々発展し続けている。これは疑いのない事実であるが、これからもますます発展し続けると断言できるだろうか。この問いへの答えの鍵を握るのは若手研究者であると私は考えている。通信技術を支える環境は日々刻々と変化している。その変化速度は現在の技術発展の中心を担うベテラン技術者が若手であった頃の比ではない。このような変化の激しい環境において技術を更に発展させるには、柔軟な発想や適応力を備えた若手研究者が数多く輩出され活躍することが必須であるといえる。

したがって、若手研究者が活躍できる場を用意することは、学会が果たすべき大きな役割の一つであり、論文誌は技術の発展に必要な情報交換の場として若手研究者に大いに活用されるべきである。しかしながら残念なことに論文誌への投稿数が年々減少しているという事実があり、通信技術の発展にとって喜ばしいことではない。

若手研究者のための特集は、上記背景を受けて少しでも若手研究者に論文投稿してもらおうと2012年度より和文論文誌編集委員会が企画しており、今年度は通信技術の更なる発展に向けてという名のもと、8回目となる。今回もこれまで同様、特集テーマとして技術分野を絞ることなく広く通信技術全般を対象とし、筆

頭著者がおおむね40歳以下の若手研究者・学生となる論文を募集した。本特集に投稿された論文数は論文18編、レター3編であり、厳正なる審査の結果、最終的に論文10編、レター2編を採録とした。また採録された論文のうち2件を論文賞として表彰することとした。

最後に、本特集の発行にあたり、御投稿頂いた著者の方々、論文査読に御尽力頂いた査読委員の方々、ならびに事務局の方々に深く感謝する。判定にあたっては、公正な採否の判断は当然であるが、通知文の作成にも注意を払った。特に編集委員の皆様には、条件付採録或不採録についてのコメントを若手研究者にとって今後の糧となるよう心がけて作成して頂いた。ここに改めて感謝する次第である。本特集をきっかけとして若手研究者に大きくステップアップしてもらえれば幸いである。そして今後のますますの投稿を期待する。

しおかわ しげき  
塩川 茂樹（正員：シニア会員） 平10慶大大学院博士後期課程修了。同年名工大・電気情報工学科助手。平13年神奈川工科大・情報ネットワーク工学科助手、助教授を経て教授。現在に至る。無線マルチホップネットワークの研究に従事。博士（工学）。平8本会交換システム研究会優秀論文賞受賞。平12電気通信普及財団テレコムシステム技術学生賞受賞。平20・平26・平28・平30本会通信ソサイエティ活動功労賞受賞。

通信技術の更なる発展に向けた若手論文特集編集委員会

委員 副委員 委員	長	塩川茂樹	・	小川猛志	・	大津智	・	山田卓哉									
	副委員長	平藤明嘉	・	今木武哉	・	佐藤輝被	・	山田川里田									
委員	伊鬼鈴木谷廣道	・	武富藤光	・	寺田岡原山	・	村木破崎	・	川里田	・	山田	・	卓鳳陽	・	一	・	超祐繁輝涉